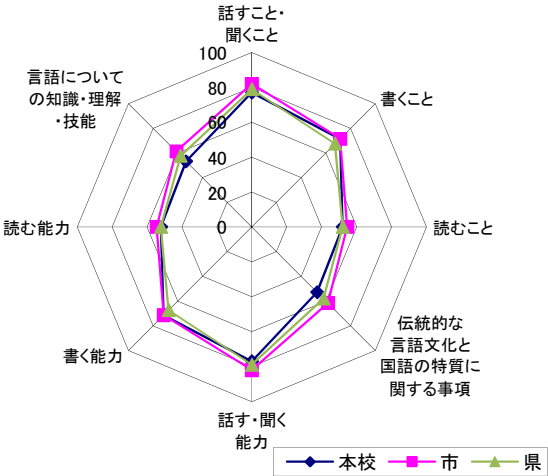


宇都宮市立御幸が原小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	77.0	82.0	78.9
	書くこと	71.4	71.5	67.4
	読むこと	52.1	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.8	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	77.0	82.0	78.9
	書く能力	71.4	71.5	67.4
	読む能力	52.1	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	53.3	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の中心に気をつけて聞く」項目では、3問中2問の正答率がそれぞれ85%をこえており、おおむね定着していると言える。 ●話し合いの内容を聞き取ることはできて、司会者の話し合いの進め方の工夫について理解しながら聞くことは、正答率が54.6%と低く、定着しているとは言えない	・5年生の実態として、話を聞くことはできるが、話の内容をよく理解することが苦手な児童が多い傾向にある。授業中はもちろん、朝の会や帰りの会等で、先生や友達の話を内容を理解しながら聞く時間を設け、聞く力の向上を図っていきたい。 ・会話科の時間を活用し、相手に分かりやすく伝えたり、話の意図を考えながら聞いたりできるよう指導していく。
書くこと	○与えられた条件で文章を書く力はおおむね定着しており、正答率も県平均を上回っている。自分の意見やその理由を書く力も定着している。	・国語において、作文を書いたり意見文を書いたりする分野の学習が増えたことが良い結果につながったと考えられる。今後も、作文や日記など、文章を書く活動を積極的に取り入れ、書く練習をすることでさらに力を伸ばしていけるようにしたい。
読むこと	○説明文の読み取りにおいて、正答率74.2%と県の平均を上回っており、文章の内容を読み取る力はおおむね定着している。 ●説明文、物語文の内容の理解については、正答率がどちらも60%を下回り、十分に定着しているとは言えない。問題文の中から、当てはまる言葉抜き出す問題での正答率が低く、無答率の割合も15%をこえている。	・読書を好む児童とそうでない児童の差が大きく、そういったことも正答率の低さに影響していると考えられる。朝の活動等で読書の時間を確保し、学年の発達段階に合った内容の本が読めるように指導していく。 ・説明文では、段落と段落のつながりを意識しながら読むように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●正答率をみると、漢字を読むことに比べ、漢字を書くことでのつまずきが目立った。特に3、4年で習った漢字を書く問題では、平均正答率も県平均を大幅に下回っている。さらに、無答率が39.2%と高く、漢字を書く力が定着されていないことが分かる。 ●漢字辞典の使い方の理解が63.9%と低かった。	・普段のノート記入や作文の指導の際には、習った漢字は必ず使うように指導するとともに、分からない漢字や言葉の意味等は、辞書を使うなどして自分で調べるように助言する。 ・補助教材を活用し、繰り返し漢字の練習をするとともに、確認のためのテスト等を実施して定着を図る。